

中村延子

区議会レポート

Vol. 30

令和3年 8月号



発行／立憲民主党・無所属議員団

中野区中野4-8-1
Phone: 03-3228-8876
Fax: 03-3389-8718

編集／中村延子事務所

中野区弥生町4-32-6-303
Phone: 080-6533-9450
email: n@nakamuranobuko.jp

中村延子のプロフィール

1981年 9月2日 中野区生まれ

1994年 東京文化小学校卒業

小学校5年生の冬、ブラジルで(社)CISVの11歳キャンプに1ヵ月参加し、9ヵ国の子もたちと異文化交流を体験。この頃から国際社会に興味を持つ。

1997年 東京文化中学校卒業

15歳で単身アメリカに渡る決意。

2001年 米国アニーライトスクール高等部卒業

在学中、夏休みを利用して宝仙学園幼稚園でボランティアをし、卒業必須活動である50時間のコミュニティーサービスを、自分の出身地である中野で実施。1912年から続いている伝統行事のメイデーでは、高校生活での活動が評価され卒業生から1人選ばれるメイクイーンに選ばれた。

2005年 米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業

在学中、上智大学比較文化学部にてサマースクール受講。2004年 北京大学医学部へ短期留学。

2005年 民間企業に就職

大学卒業式▶

株式会社ケン・コーポレーションから業務委託を受ける総務代行会社に就職。外国人賃貸住宅管理部業務の一端を担う。

2009年 衆議院議員手塚よしお秘書

地元事務所に勤務。

2010年 参議院議員蓮舫秘書

参議院選挙にて、秘書派遣で蓮舫大臣の選挙事務所スタッフとして奮闘。その延長線上で事業仕分けのお手伝いも含め、蓮舫事務所に出向。

2011年 中野区議会議員 初当選

1,530票をいただき初当選。建設委員会、震災対策特別委員会を歴任。厚生委員会、地域支え合い推進特別委員会副委員長を務める。民主党東京都連青年委員会交流局副委員長、中野区国際交流協会評議員。

2015年 中野区議会議員 2期目の当選

2,513票をいただき、2期目の当選。区民委員会委員長、少子高齢化対策特別委員会に所属。後期は、総務委員会委員、少子高齢化対策特別委員会委員を務める。

2019年 中野区議会議員 3期目の当選

2,603票をいただき3期目の当選。子ども文教委員会、中野駅周辺整備・都市観光調査特別委員会に所属。後期は、総務委員会、危機管理・感染症対策調査特別委員会副委員長を務める。党青年局局長補佐、女性議員ネットワーク世話人。

2020年1月 第一子を出産

おとめ座/B型/酉年 趣味:音楽、料理、旅行、読書



▲兄と2人で祖母の故郷・広島県福山市にて



▲宝仙幼稚園でのボランティア活動



▲メイデーでのスピーチ



▲北京大学に短期留学



▲2011年4月中野区議選



▲中野区議会立憲民主党・無所属議員団

第2回定例会で一般質問を行いました!

※質問は6月1日に行いました

1 新型コロナウイルス対策について

Q 医療従事者等のワクチン接種について

A 中野消防署と野方消防署の救急隊員等については、東京警察病院で接種を行っており、6月中旬までに2回目の接種を終了する見込み。中野区医師会の会員については、ほぼ2回目の接種を終了し、中野区歯科医師会および中野区薬剤師会の会員については、6月上旬には2回目の接種を開始すると聞いている。

Q 訪問接種について

A 訪問接種を実施する医療機関を拡大するためには、医師や看護師の移動、ワクチンの運搬などに係る費用負担の支援などが必要であると考えており、早期に実施できるよう検討中。

Q 接種率の公表と目標接種率について

A 中野区新型コロナウイルスワクチン接種実施計画では、65歳以上の方の接種率を65%、それ以外の方の接種率を50%と見込んでいる。任意接種のため、目標を設定するのは難しいが、区としては接種を希望するすべての区民が接種できるよう推進していきたい。また、ワクチン接種率は、毎月10日と25日を目安に区のHP等で公表する。

Q ワクチン接種時の特別有給休暇について

A 民間企業等に対するワクチン接種時の特別有給休暇導入については、区内経済団体に対して要望していくことを検討していきたい。

2 区政構造改革について

Q 実行プログラムの周知について

A 区報・HPにおける発信やタウンミーティングなどを通じて、構造改革の目的や取り組みに係る区民の理解を得ていく。

Q 構造改革推進アドバイザーについて

A アドバイザーからいただいた助言は、実行プログラムの内容の精査や取組への反映、また、次年度に向けた評価・検証につなげ、より効果的な実行プログラムとしていく。

Q 行政評価の在り方もヒアリング予定。すべての事務事業を定期的なサイクルで点検できる仕組みを構築すること、その評価が区の施策や政策につながっていく仕組みの構築が必要。

A 今後は、行政評価と構造改革を連動させる視点を持ちながら、制度運用を適切に行っていく。外部評価における分析や評価方法については、構造改革アドバイザーからも助言を受けよりよい制度運用となるよう検討する。

Q デジタルシフトによる業務効率化について

A これまで試行的に導入してきたRPAは、目に見える形で業務効率の効果が上がっており、今後もさらなる導入を進め、より効果的、効率的な行政サービスの提供を目指していく。



Q 今後の職員定数について

A 今後、財政状況がさらにひっ迫する中で、持続可能な区政運営を行うためには、人件費コストを抑えつつ、行政サービスの向上を図る必要がある。デジタルシフト等による職員定数の抑制を図りつつ、新たな行政需要を見極め、適切な職員定数を検討したい。

3 基本計画および区有施設整備計画について

Q 児童館の機能強化について

A 今後構築する子ども版地域包括ケア体制や、「子育て先進区」の実現に向けた取組を行うため、重要な施設であると認識しており、令和4年度より、子育て支援や地域の見守り、ネットワーク支援機能を強化していく考えだ。

Q 児童館は現在、日・月曜休み。休館日の柔軟な運営も求められるが。

A 区民の利便性向上のために、開館日や施設の改修等の対応について、様々検討していく考え。

Q 学童クラブ施設の内容と一時保育事業について

A 学童クラブ施設においては、学童クラブと乳幼児親子の居場所である育てひろばを実施する予定。誤解のないように広報等を行う。一時保育事業の課題を整理・分析し、区有施設における事業の試験実施の検証も踏まえ、今後の方向性について検討を進める。

Q 閉館となる児童館の跡地活用について

A 閉館となる児童館の跡地については、暫定活用も含め様々な行政需要に応じた利活用を検討しており、個別具体的な活用方策は、与条件を整理しながら見定め、適宜示していく。

4 女性施策について

Q 女性施策の充実と庁内の連携強化について

A 区としても、子どもと女性が住みやすいまちの実現のため、女性施策の重要性を認識しているところであり、他区での取組等を参考に、充実を図っていきたい。

Q 生理用品の継続支援と相談窓口への誘導

A 経済的負担の軽減だけでなく、子育て家庭の母親の健康維持やジェンダーギャップ解消の推進のためにも、生理用品配布の継続支援が必要。今回作成した「女性のための相談のご案内」チラシを活用しながら、相談対応について区HPやSNS等を活用して周知するだけでなく直接女性に対してアプローチできる機会も活用して相談につなげていく。

Q 児童生徒への生理用品の配布について

A 現在は必要とする児童生徒に対し、心身の状況などに配慮しつつ保健室において渡している。児童生徒の健康面や指導面など様々な観点から、各学校と相談しながら適切な対応を工夫する。

Q HPVワクチン接種に係る小児科かかりつけ医との連携について

A 小児の定期予防接種等を実施する医療機関を89か所指定しており、うち、HPVワクチンの接種を実施している医療機関は60か所。現在HPVワクチン接種を実施していない医療機関に対し協力を依頼するなど、希望する方が確実に接種できる体制を区内に整備していく。

新型コロナウイルスワクチン接種について

● 予約について

16歳以上の方へ (7月21日午前8時30分更新)

中野区区民活動センター15か所、中野区医師会館、医療機関12か所での接種中野区予約専用サイトとコールセンターでの1回目接種の予約受付は、満了となりました。キャンセルが出た場合のみ予約が可能です。なお、2回目接種は予約できます。

次回の予約受付は、8月15日午前9時からです。

ただし、集団接種会場である区民活動センターと中野区医師会館の1回目接種の予約枠がない見込みです。1回目接種を希望される方は、8月6日以降に、各医療機関での個別接種をご予約ください。接種は8月16日以降となります。

2回目接種分

9月15日までの予約可能数 約14,800
中野区予約専用サイト、またはコールセンター
(0570-03-5444)で予約してください。



【キャンセル待ち受付サービスの実施】

集団接種会場(区民活動センター)で当日キャンセルが出た場合、接種希望者の中から抽選を行います。当選者には、中野区職員が電話で連絡し、すぐに接種会場へお越しになれる方はワクチン接種が受けられる仕組みです。接種会場ごとにキャンセル待ち受付期間が異なります。中野区発行の接種券をお持ちで、当選の連絡があった当日、区民活動センターへお越しになれる方は、ご利用ください。

※接種券をお持ちの16歳以上の方が対象です※詳細は区ホームページでご確認ください

中野区のワクチン接種状況 (7月29日午前9時現在)

区分	接種率		対象者数
	1回目接種済(接種者数)	2回目接種済(接種者数)	
65歳以上の方	82.5% (58,189人)	75.7% (53,375人)	70,492人
12~64歳の方	31.1% (74,838人)	13.6% (32,651人)	240,614人
合計	42.8% (133,027人)	27.7% (86,026人)	311,106人

7月29日(木)に新型コロナウイルスワクチンを1回目接種しました。接種希望される方が全員受けられるよう、今後も努力していきます。

※集団接種会場での写真撮影は禁止されています



HPVワクチン(いわゆる子宮頸がんワクチン)について

<HPVとは>

HPV(ヒトパピローマウイルス)は主に性交渉によってうつるウイルスで、生殖器やその周辺に感染します。性交渉の経験のある女性のおよそ8割が、生涯で一度はHPVに感染するといわれています。つまり、男女ともに誰でも感染するリスクがあるウイルスです。HPVは女性に特有の子宮頸がんだけでなく、男性に多い中咽頭がん、その他にも肛門がん、膣がん、外陰がん、陰茎がん、尖圭コンジローマなど様々な病気の原因になることが知られています。



<新型コロナウイルス蔓延に伴う、予防接種の延長措置について>

新型コロナウイルス感染症への罹患リスクを考慮し、受診を控えたことにより、期間内の接種が出来なかった方について、当面の間、接種期間を延長します。お持ちの予防接種予診票はそのままお使いいただけます。新型コロナウイルス感染症の流行が収まりましたら、終了時期を決定します。その際は、区ホームページ等でお知らせします。

<男の子へのHPVワクチン接種について>

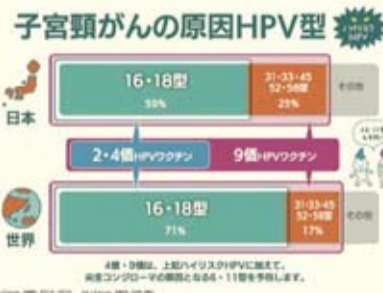
HPVは、子宮頸がんだけでなく、咽頭(のど)、外陰部、膣、陰茎、肛門にできるがんの原因となる事が知られています。咽頭がんの中でも中咽頭がんの発生に大きく関わっており、このがんは男性に多くできやすいです。また、陰茎に「できもの」ができる、尖圭コンジローマという性感染症はその原因の9割がHPVと言われていました。男の子にHPVワクチンを接種する事で、将来中咽頭がんや尖圭コンジローマの発症を防ぎます。男性のHPVワクチン接種はパートナーの女性を守るだけでなく、男性自身のがんから身を守る効果もあるのです。日本ではこれまでHPVワクチンの適応は、9歳以上の女性のみでしたが、2020年12月25日に4価HPVワクチン(ガーダシル)の9歳以上の男性への適応にも厚生労働省による承認がおりました。これまでも日本でHPVワクチンを接種した男性はいますが、あくまで適応外の形での接種でした。



※HPVワクチンの適応とは:万が一、ワクチンの接種後に生じた有害事象が生じた場合に、そのワクチン接種が適応外の場合は公的な救済制度の対象外ですが、適応対象であれば、公的な救済制度の検討対象に入ります。

<9価ワクチンについて>

子宮頸がんやその前がん病変の予防効果は9価が最も高いです。特に日本人は、子宮頸がんの原因としてHPV 52、58型が多いという特徴があり、2価・4価ワクチンでは、子宮頸がんの原因となりうるハイリスクHPVの約6割しか予防できません。一方で、9価ワクチンであれば、日本人でも約9割のハイリスクHPV感染を予防できます。日本でも2020年7月に9価HPVワクチンが承認されました。また、2021年2月に9価HPVワクチン(シルガード9)が販売承認されました。費用は3回で約10万円です。9価HPVワクチンが定期予防接種の対象となるかどうかは、今後検討されていく見込みです。

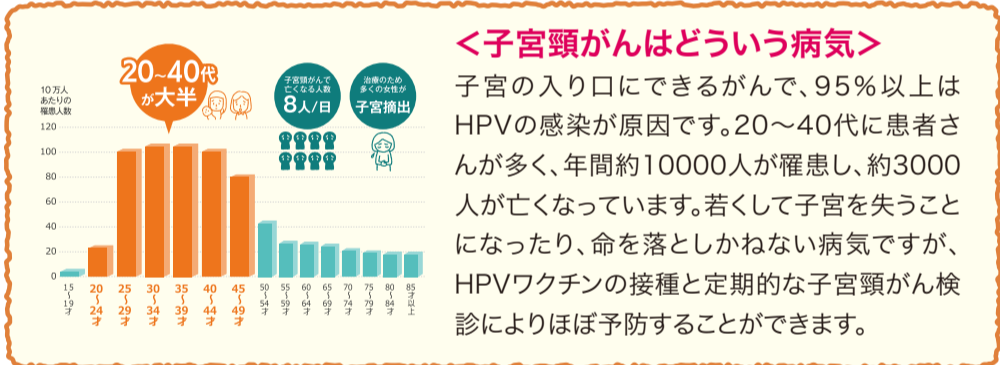


出典「一般社団法人「HPVについての情報を広く発信する会」

9価HPVワクチンを自費で接種しました!

2020年10月、2020年12月、2021年4月に自費で3回接種を致しました。

※今までの研究の結果から、HPVワクチンは26歳以下のすべての女性に薦められています。27~45歳の女性では、HPV16、18型に関連した子宮頸がんの前がん病変に対するHPVワクチンによる予防効果は証明されていますが、年齢が高くなるほどワクチンで防げるHPVの型にすでに感染している可能性が高まります。このため、27歳から45歳でHPVワクチンを接種していない人は、医師との相談の上で接種を検討することが勧められています。日本では46歳以上の方の接種は推奨しないとされています。



<子宮頸がんはどういう病気>

子宮の入り口にできるがんで、95%以上はHPVの感染が原因です。20~40代に患者さんが多く、年間約10000人が罹患し、約3000人が亡くなっています。若くして子宮を失うことになったり、命を落としかねない病気ですが、HPVワクチンの接種と定期的な子宮頸がん検診によりほぼ予防することができます。

<HPVワクチンの予防効果と安全性>

HPVワクチンによる子宮頸がん予防効果はきちんとした研究によって確かめられています。2020年10月に海外から報告された研究では、4価のHPVワクチンを接種することで子宮頸がんの発症リスクが約1/3になることがわかりました。加えて、17歳以下で接種することにより発症リスクは約1/10まで下がることも確かめられています。HPVワクチンはこれまで世界で約8億回接種されている安全なワクチンで、他のワクチンに比べて特に重い副作用(ワクチンによる副作用)が起こりやすいわけではないことが確認されています。HPVワクチンを接種した後に起こりうる症状としては、痛みや腫れが中心で、稀に注射の痛みによる一過性の失神(迷走神経反射といいますが)などがみられます。失神などを含めた重篤な有害事象(ワクチンが原因でないものも含む)の発生率は1万人あたり5人で、そのうち約9割は回復しています。子宮頸がんは1万人あたり132人に発症するとされており、そのうち約9割は子宮の摘出など侵襲の高い治療が必要なことから、HPVワクチンのメリットはデメリットを上回ると考えられます。



<HPVワクチンは定期接種です>

2013年6月に定期接種のまま、積極的勧奨がストップされました。接種券が直接ご自宅に送られなくなりましたが、対象者は無料でワクチンを接種できます。中野区では、昨年度からDT2期予防票とともにHPVワクチンに関するチラシを同封し、ご案内をしています。また、定期接種の対象最終年の前年度3月にも通知をお送りしています。

<定期接種の対象者>

小学校6年生から高校1年生の女子が対象者です。3回接種を無料で終わらせるためには、高校1年生の9月までに1回目接種の必要があります。無料接種期間を過ぎてしまうと、3回で約5万円の費用がかかります。

